

# 事業所アンケート調査報告書

第5期障害福祉計画及び第1期障害児福祉計画策定調査



**障害者計画・第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画  
策定のためのアンケート調査実施について**

(目的)

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第88条により障害福祉サービスの推進を図るため、各年度における障害福祉サービス・相談支援の種類ごとの必要な量の見込みその方策等の策定をする第5期障害福祉計画及び第1期障害児福祉計画を策定するにあたり、障害者から障害福祉サービスのニーズや見込み量を推察するためにアンケート調査を実施するとともに、サービス提供事業所に対しサービス提供時の現状や事業計画等についてもアンケート調査を実施するものである。

(実施主体) 健康福祉部 福祉課

(調査対象者等)

① 障害福祉サービス事業所

(回答数の内訳) 事業所数は、複数回答されているため

調査対象	調査数 (メール)	回答事業所数
訪問系 事業所	18 事業所	
生活介護	16 事業所	
自立訓練	15 事業所	
就労継続支援 A 型	5 事業所	
就労継続支援 B 型	29 事業所	
短期入所	9 事業所	
施設入所	4 事業所	
グループホーム	8 法人	
回答率 57.7%	104 事業所	

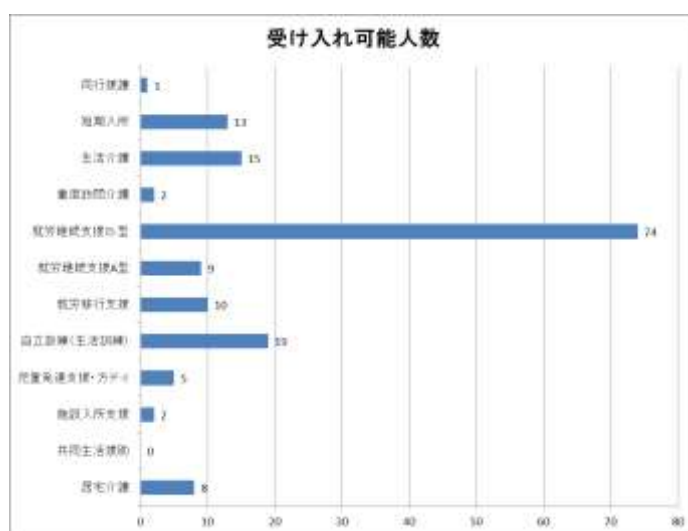
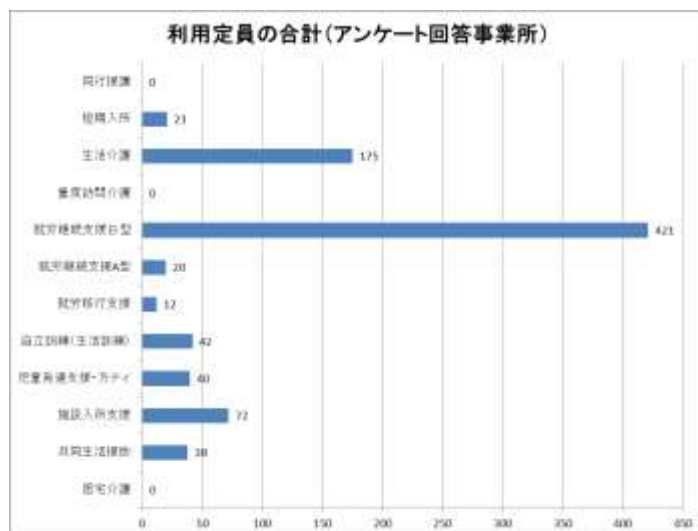
(実施内容) 別添調査票のとおり

(実施期間) 平成29年7月28日から平成29年8月8日

(実施方法) メールにより対象者等あてアンケート調査票を送付し、FAX またはメールで回答を得る。

(その他) 実施後、特定されない形で結果を集計し見込み数量を検討するための基礎資料とするとともに、施策推進協議会、自立支援協議会等へ情報提供するものとする。

## 今後の受け入れ可能人数

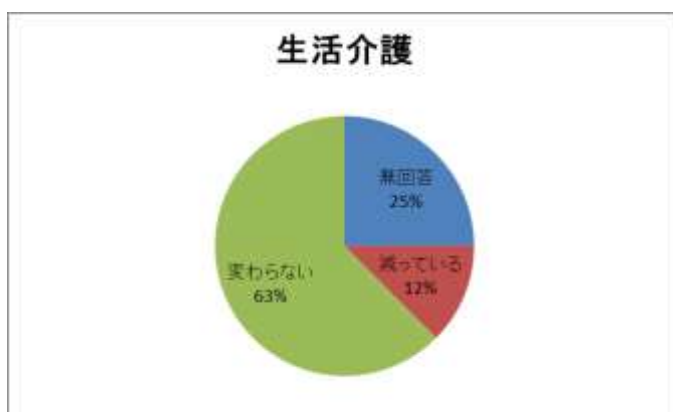
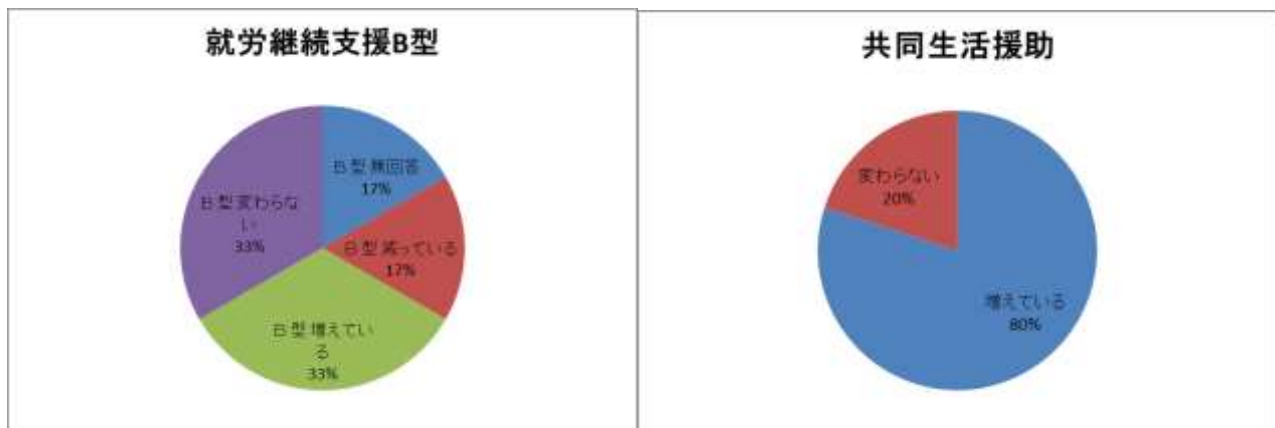


サービス名	利用定員	受け入れ可能人数	定員に対する割合
同行援護	定員なし	1	
居宅介護	定員なし	8	
重度訪問介護	定員なし	2	
共同生活援助	38	0	0%
施設入所支援	72	2	3%
児童発達支援・方デイ	40	5	13%
自立訓練(生活訓練)	42	19	45%
就労移行支援	22	13	59%
就労継続支援 A 型	20	9	45%
就労継続支援 B 型	421	74	18%
生活介護	175	15	9%
短期入所	21	13	62%

利用定員に対し受け入れ可能人数の割合が高いのは、就労移行支援事業、自立訓練、就労継続支援 A 型となっており、利用者が少ないことを示している。特に就労移行支援事業と就労継続支援 A 型は平成 28 年度に出来た新しい事業所が多いため今後の利用動向を注視する必要がある。

事業所が捉えている利用者ニーズの増減状況

訪問系	5 事業所	変わらない (2 件) 無回答 7 件
児童通所支援	3 事業所	増えている (2 件)、減っている (1 件)
就労継続支援 A 型	3 事業所	変わらない (3 件)
短期入所	4 事業所	減っている (1 件) 変わらない (1 件) 増えている (1 件) 無回答 (1 件)
共同生活援助	5 事業所	変わらない (1 件) 増えている (4 件)
施設入所	2 事業所	変わらない (2 件)
自立訓練 (生活)	6 事業所	減っている (3 件) 無回答 (3 件)
就労移行支援	4 事業所	変わらない (2 件) 減っている (3 件)
就労継続支援 B 型	18 事業所	変わらない (6 件) 増えている (6 件) 減っている (3 件) 無回答 (3 件)
生活介護	8 事業所	変わらない (5 件) 減っている (1 件) 無回答 (2 件)



減っていると回答した事業で一番多かった事業は、自立訓練で有期限のサービス事業で利用が減っている。

一方で、障害児通所支援は、利用ニーズが増加していると回答している。

今後事業所を開設する予定の事業について

就労継続支援 B 型	10 人	H30/4
就労継続支援 B 型	10 人	H31. 4
共同生活援助	10 人	H31. 4
生活介護	10 人	H31. H32
放課後等デイサービス	10 人	H30/6
就労定着支援	10 人	H30/5
自立生活援助	10 人	H30/5

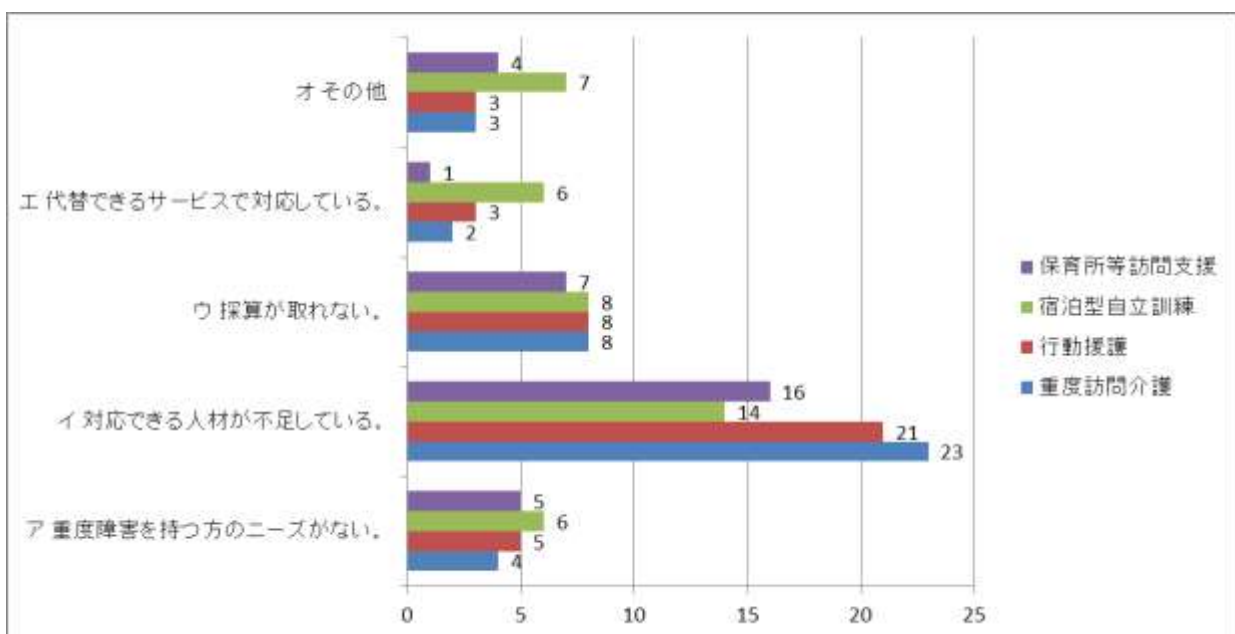
平成 30 年度から始まる新規事業についても開設予定事業所がある。

行動援護、自立訓練（宿泊型）、重度訪問介護、保育所等訪問支援の 4 つのサービスについて

鶴岡市では、「行動援護、自立訓練（宿泊型）事業所がない」、また、「重度訪問介護の利用者が極端に少ない」、「保育所等訪問支援事業所がない」といった現状があります。このことについて、①考えられる理由、②今後の対応について、各選択肢から該当する番号に○印（複数回答可）をつけてください。

①事業所が捉える、考えられる理由

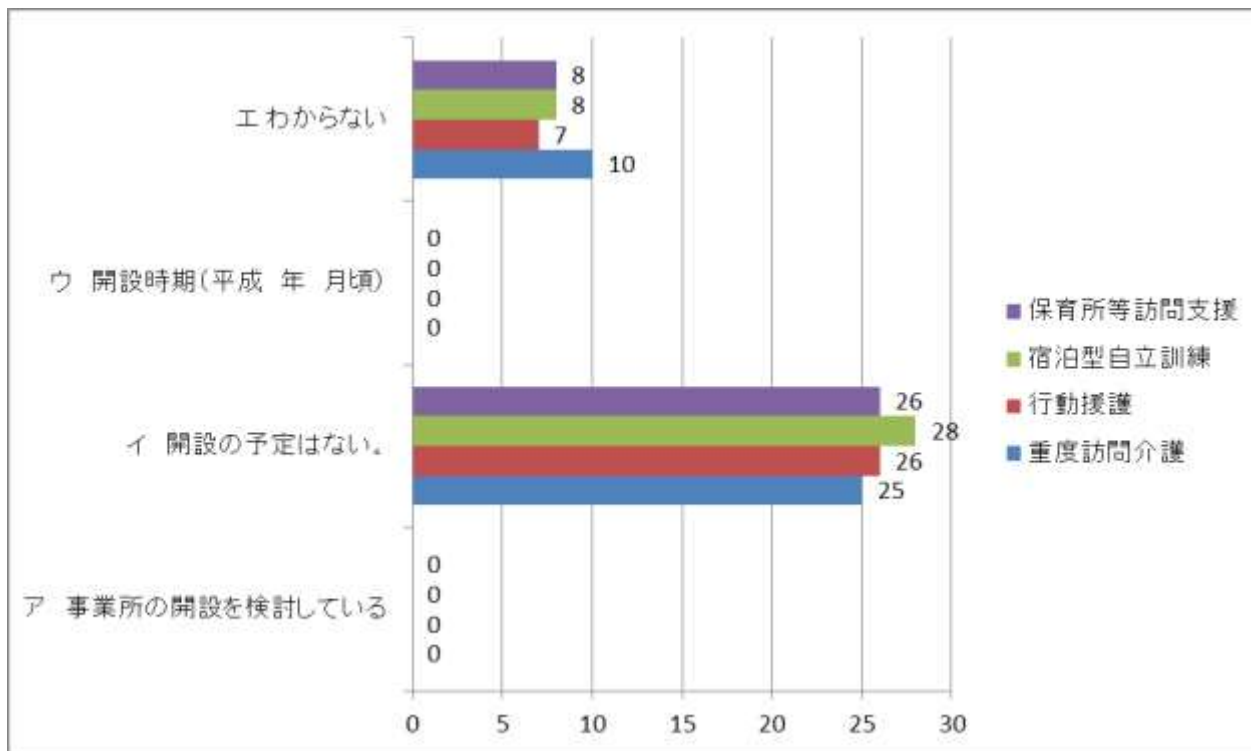
	重度訪問介護	行動援護	宿泊型自立訓練	保育所等訪問支援
ア 重度障害を持つ方のニーズがない。	4	5	6	5
イ 対応できる人材が不足している。	23	21	14	16
ウ 採算が取れない。	8	8	8	7
エ 代替できるサービスで対応している。	2	3	6	1
オ その他	3	3	7	4



圧倒的に対応できる人材が不足している。

②事業所が考えられる 今後の対応

	重度 訪問介護	行動援護	宿泊型 自立訓練	保育所等 訪問支援
ア 事業所の開設を検討している	0	0	0	0
イ 開設の予定はない。	25	26	28	26
ウ 開設時期（平成 年 月頃）	0	0	0	0
エ わからない	10	7	8	8



ここ3年での開設予定はない。または、わからないという状況である。

趣旨	内容
<b>職員の資質向上 (4件)</b>	<p>新規の障害福祉サービス事業所が増え、既存の事業所では利用者が増えない状況にあるのではないかと感じている。生活介護事業については全体的には利用率が下がっているが、身体障がいと重複している方や個別対応が必要な行動障害のある重度の方が増えているため介護量は増えている。また支援力の向上が求められるケースが多く職員の資質の向上が求められていると感じる。</p> <p>身近な療育の場として早期支援を実施しております。また、個々の障害に対し適切な支援が出来るよう専門資格を有する職員を配置し、職員の資質向上に力を入れています。</p>
<b>人材不足 (8件)</b>	<p>人材の募集はしているが、充足する程の人材は確保できていない。(ヘルパー)</p> <p>新たなサービスに限らず、人材の育成はどのサービスでも必要。職員募集しても集まらないことだけでなく、支援者の質の確保が難しい。ヘルパー増員急務</p>
<b>介護保険移行の課題</b>	<p>高齢利用者の介護保険への移行を埋めるための情報収集。</p>
<b>家族支援の必要性</b>	<p>家庭生活の中での過ごし方に課題を感じられる方も多く、家族支援の必要性を感じている。</p>
<b>学校卒業後のニーズ (2件)</b>	<p>養護学校生徒の保護者からの声で、在学中は放課後等デイサービスを利用し、18:00 くらいまで預かってもらえたが、卒業後は日中活動の施設のサービス提供時間が大体 16:00 くらいなので仕事を辞めなければならない、またはフルタイムで働けなくなるのではといった不安を抱えている方がとても多かった。このニーズに応えるため、10 月よりサービス提供時間を 19:00 までに延長することを計画している。</p>
<b>採算の合わない事業の必要性</b>	<p>ニーズを把握する機会を設け、事業所の努力で対応できることはしなければならないが、採算が合わない等、一事業所として対応が難しい場合は行政としての対応も検討していただきたい。</p>
<b>事業所の情報公開</b>	<p>(利用者が事業所を選べるようにするシステムを作るべき) 福祉サービス事業者の情報公開は必要であり、利用者・家族が情報を得て自ら事業所を選べるよう情報提供の機会を更に積極拡大的に設けるべきだと思います。(例) 市の広報やホームページに記載する。事業所パンフレット集を配布するなど。</p>
<b>就労定着支援</b>	<p>(就労移行支援) 9月に一般就労3名を予定している。半年の定着支援はあるが重厚な支援は行えない。来年4月の就労定着支援事業の開始を検討している。</p> <p>(就労定着支援) 就職後の定着に課題を感じていたため既存事業に連動する形で新設したい。</p>



趣旨	内容
制度の複雑化	利用者、養護者の高齢化が進み相談支援との連携を図りながら連携しているが、会議などの機関が増えてしまい、職員の負担になっている。安定した通所、支援を継続するためにも必要不可欠な部分ではあるが、サービスを提供する上で大きな課題となっている。また、国の福祉施策を度重なる改変に翻弄され、事務の仕事が複雑化、煩雑化している。支援に向かう時間が削られている。
地域の社会資源	我慢していることの方が多く生活の中、サービスを選択し、したい暮らしに少しでも近づくためには、既存のサービスにプラスαできること、条件付き、負担のあり方、提供の仕方・内容・環境整備等、多方面から捉え考え、制度を変えることは困難であるが、鶴岡市独自・カラーを持ったサービスができないものなのでしょうか。
発達障害に関する支援や課題	<p>最近の利用希望相談で目立つのは、普通学級に在籍して障害診断を受けている児童です。読字、書字、計算障害（LD）で知的には遅れはないが、「授業についていけない、学習ができなくて2次的な症状が出ている」とったケースです。弊社では、学習障害に対する支援が大きな課題である考えます。</p> <p>（発達障害への対応）従来の経験論や精神論ではない、エビデンスに基づいた認知療法的なプログラムを充実させたい。ソーシャルスキルトレーニング（SST）や発達障害デイプログラム（ADP）、就労支援プログラム（WSSP）などのトレーニングプログラムを進めていきたい。</p>
保育所等訪問支援	保育所等訪問支援は、訪問された側と訪問指導する側の支援方針に温度差や地域性も重なり短時間・短期間で効果を期待することは難しい状況でした。対象児および保護者が混乱する場面も見られました。が、障害児支援には必要と思いました。（担当ケースが2年利用）
利用者の高齢化（2件）	<p>利用者の高齢化が徐々に進むなか、新規の利用者の確保が難しくなっている。</p> <p>利用者の高齢化により介護サービスへの移行するものが出てきているが精神障害者を受け入れる施設がほとんどない。</p>

その他

就労継続支援 B 型の工賃、利用者の課題…2 件

サービス報酬見直し…2 件

自立訓練の運営上の課題…2 件

短期入所運営上の課題（2 件）